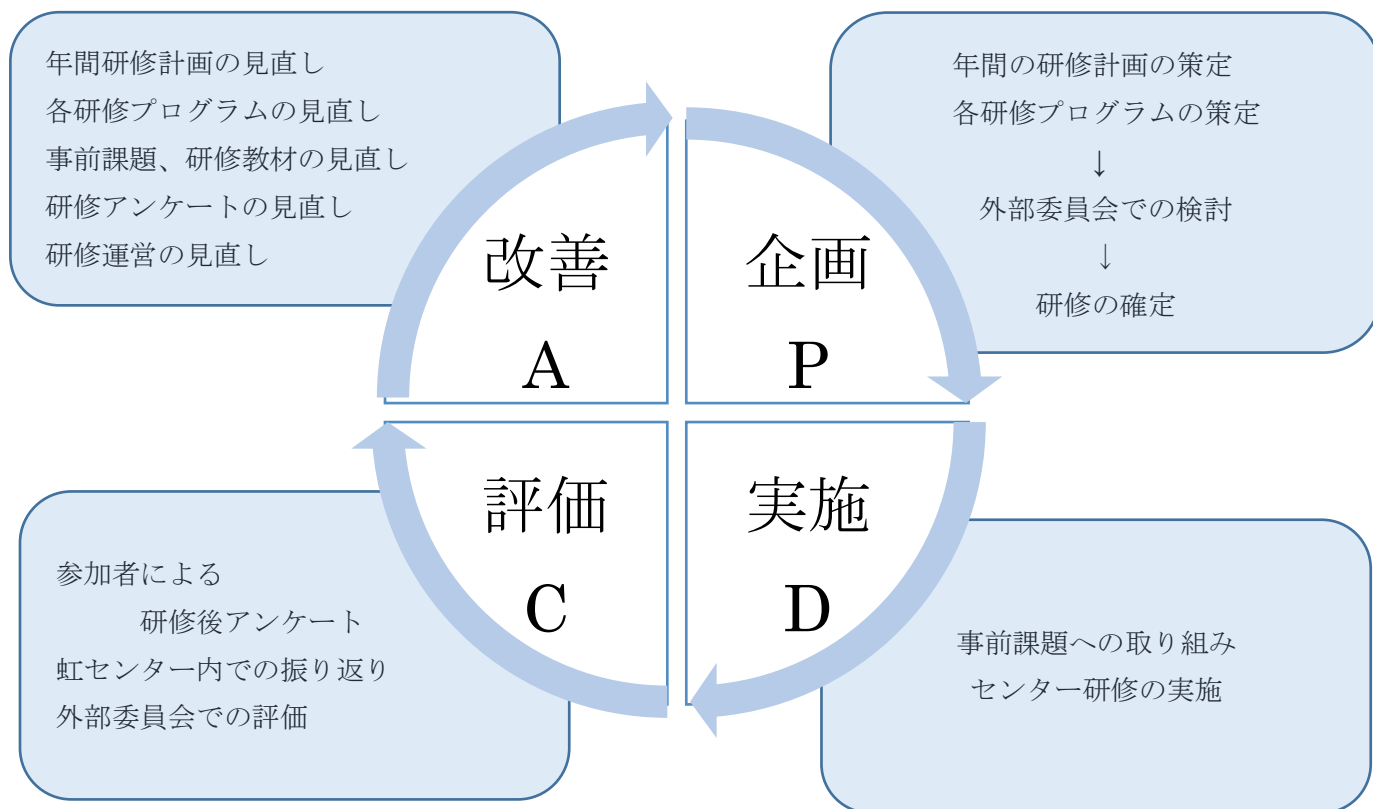


増沢構成員提出資料

子どもの虹情報研修センター 研修プログラム策定の考え方

第3回子ども家庭福祉人材の専門性確保ワーキンググループ資料 16.10.7

子どもの虹情報研修センターの専門研修は、下図に示すような「企画→実施→評価→改善（PDCA）サイクル」に則って展開しています。



企画（Plan）：研修計画の策定

【年間の研修計画、研修対象、目的やテーマ、研修の新設や休止、改善などの検討】

以下の点を踏まえて計画

- ✧ 施策の動向、運営指針、将来ヴィジョン、現在の課題など
- ✧ 現場の状況やニーズ
 - ・前年度実施の研修事前アンケート（現場の困難点等）
 - ・前年度実施の研修後アンケート（プログラムの評価および今後必要な研修内容等）
 - ・前年度の事例検討やグループ討議の内容を分析
- ✧ 有識者、厚労省の専門官等で構成される企画評価委員会（添付資料 1）での意見
- ✧ 関連機関、研修対象団体等の代表による運営委員会（添付資料 2）での意見
- ✧ 他機関で行われている研修内容

→ 年間約 25 本の研修を企画（平成 14～27 年度で計約 20,000 名参加）



【各研修プログラムの策定】

- ◇ 日程：○泊○日、前期後期、毎月など
- ◇ 対象：定員（会場や研修方法に合わせて）、職種、経験年数
- ◇ プログラムと方法
講義、事例検討、グループ討議、演習（ロールプレイ、模擬事例を用いた検討他）、実践報告等



【研修プログラム案に対する外部委員会等での検討と修正】

- ◇ 企画評価委員会での検討、修正
- ◇ 運営委員会での検討、修正
- ◇ 厚生労働省虐待防止対策推進室で検討、修正



【研修プログラムの確定】

- ◇ 3泊4日程度の研修
- ◇ 2泊3日の研修を前期と後期に分けて2回行う研修（児童相談所長研修）
- ◇ 地域に出張しての出前型の研修（地域虐待対応合同研修）
- ◇ 10名程度のエキスパート研修（児童福祉司SVステップアップ研修）
- ◇ Web研修（児童福祉施設職員継続研修）
- ◇ テーマ別研修
- ◇ 公開講座



【講師の選定と調整】

- ◇ 講師リストより選定
※選定の考え方
 - ・実務経験を一定程度積んだ上で、そのテーマに精通した専門家・学識者・実践家
 - ・学会報告、論文、著書、他機関の研修講師経験などがある方
 - ・研修受講者や研究協力者で、実務経験を積み、力をつけた実践家



【実施に向けた調整、告知】

- ◇ 年間研修概要の作成と参加対象機関への配布
- ◇ ホームページによる告知
- ◇ 各研修の要項の作成と配布
- ◇ 募集（HPによる研修受付システム）から参加者決定までの調整
- ◇ 研修会場の調整
- ◇ その他

実施（Do）：研修の実施

【参加決定者へ事前課題のお願い】

- ◇ フェイスシート（添付資料 3）の作成（機関の現状や特徴、参加動機等をシートにまとめる）
→研修当日グループごとに綴じて、参加者に配布。グループ討議の素材とする
- ◇ 各自が関わった事例のまとめ（記載様式に沿って記述を求める）（添付資料 4）
→事例検討で検討する事例を十数例選出（テーマに沿って選出）し、事例検討の素材候補とし、参加者と調整を行う。
- ◇ 上記事例を簡潔にまとめた概要の作成
→個人や機関が特定されないよう全員の事例を冊子にし、参加者へフィードバック
- ◇ 事前アンケート（現状と課題等について尋ねる質問紙）（添付資料 5）
→結果を集計し、参加者へフィードバック。グループ討議や演習等の素材とする。

【センター研修の実施】

- ◇ 講義
- ◇ 事例検討：参加者から提出された事例を大グループ（参加者の半数）と小グループ（約 6-8 名）に分かれて検討。それぞれのグループには助言者がつく
- ◇ グループ討議：6-8 名のグループを編成。フェイスシートやアンケート結果等を踏まえ、各機関・自治体の情報交換やテーマに即した討議を行う
- ◇ 実践報告：先進的な取り組みを行っている自治体や機関から報告してもらう
- ◇ 演習：教材を用いたワーク、ロールプレイなど
- ◇ 振り返り：毎日の研修終了後に振り返りの時間を設定。研修から得られたこと・気づいたことなどをまとめる

評価（Check）：研修の評価

【研修アンケートへの回答】

- ◇ 研修後アンケート（添付資料 6）への回答（各プログラムの役立ち度の評価、全体を通して、「知識」、「気付き」、「意欲の向上」の 3 つの指標で自己評価）
- ◇ 1 年後アンケートの実施（一部の研修で実施）

【虹センター内での振り返り・評価】

- ◇ 研修後アンケートの集計・分析
- ◇ 研修部会議、センター職員会議での検討（研修プログラム、講師、事例、用いた教材等の評価）
- ◇ 研修で扱われた事例の再分析（事例の内容・参加者や助言者のコメントの分析）

【外部委員会等への報告と評価】

- ◇ 企画評価委員会への報告と評価（年２回）
- ◇ 運営委員会による報告と評価（年１回）

【紀要での報告】

- ◇ 研修プログラム・講師・研修後アンケート結果等をまとめ、掲載

【学会での報告】

改善（Action）：研修計画・企画等の改善

【評価を基に改善点を明確にし、次年度計画につなぐ】

- ◇ 研修の取りやめ、研修の新設、研修の再編
- ◇ 参加対象の見直し（適正人数、対象職種の選定、経験年数、定員を超えた場合の選択基準など）
- ◇ 実施日や期間の見直し
- ◇ プログラムの改善（内容、方法、講師、教材、討議内容の共有の方法、事例検討の方法、トレーニングの流れなど）
- ◇ 事前課題の改善（事例のシート、事前アンケート、フェイスシート、その他）
- ◇ 研修後アンケートの改善
- ◇ 研修の募集から決定までのシステム改善（年間研修概要の改善、HP 受付システム、研修生の情報管理、宿泊等の業者との調整、他）
- ◇ 研修事業の報告のあり方の改善（紀要、学会、他）
- ◇ 外部委員の新規委嘱等
- ◇ 研修会場の改善
- ◇ その他

研修参加者へのアフターフォロー

- ◇ 情報発信：研修案内、レインボータイムス（機関紙）、メーリングリストへの参加案内等の発信
- ◇ 専門相談：ケース対応、法律相談等
- ◇ 研修教材の開発と発信：Web を用いた教材の開発と提供
- ◇ 参加者で構成されたメーリングリストによる情報の交換
- ◇ その他

添付資料 1

子どもの虹情報研修センター企画評価委員会委員名簿

(平成28年10月1日現在)

愛育研究所客員研究員	山本 恒雄
いぶき法律事務所	岩佐 嘉彦
大分大学福祉健康科学部教授	相澤 仁
大阪府立母子保健総合医療センター母子保健情報センター長	佐藤 拓代
社会福祉法人清和会 三浦しらとり園施設長	加藤 芳明
社会福祉法人養徳園 養徳園園長	福田 雅章
新横浜法律事務所	高橋 温
大正大学大学院客員名誉教授	村瀬嘉代子
千葉大学教育学部教授	保坂 亨
花園大学社会福祉学部教授	橋本 和明
福岡市こども総合相談センター所長	藤林 武史
LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡邊醫院	渡辺 久子

オブザーバー

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

総務課虐待防止対策推進室室長補佐	竹中 大剛
〃 家庭福祉課児童福祉専門官	竹内 愛
〃 母子保健課課長補佐	高山 啓

計15名

添付資料 2

子どもの虹情報研修センター運営委員会委員名簿

(平成28年10月1日現在)

国立成育医療研究センターこころの診療部長	奥山真紀子
子どもの虐待防止センター副理事長	河津 英彦
全国児童自立支援施設協議会	青木 建
全国児童相談所長会事務局長	花本 由紀
全国児童養護施設協議会研修部長	則武 直美
全国社会福祉協議会児童福祉部長	佐甲 学
全国情緒障害児短期治療施設協議会会長	平田 美音
全国乳児福祉協議会広報研修委員長	摩尼 昌子
全国保健所長会	田中 敦子
全国母子生活支援施設協議会副会長	乙部 公裕
全国養護教諭連絡協議会会長	木嶋 晴代
日本医師会常任理事	温泉川梅代
日本看護協会常任理事	中板 育美
日本子ども虐待医学会会長	市川光太郎
日本子ども虐待防止学会副理事長	磯谷 文明
日本産婦人科医会幹事	奥田 美加
日本児童青年精神医学会	田中 哲
日本小児科学会	星野 崇啓
日本知的障害者福祉協会常任理事	太田 和男
日本弁護士連合会	藤田 香織
東京家庭裁判所 次席家庭裁判所調査官	松田 圭介
横浜市こども青少年局こども福祉保健部長	細野 博嗣

オブザーバー

厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課

計 23名

添付資料 3 平成 28 年度児童相談所児童福祉司スーパーバイザー研修 フェイスシート

氏名（ふりがな）		性別		職種 ☐ 行政職 ☐ 福祉職 ☐ 心理職 ☐ 保健職 ☐ （ ）		児相経験年数 年 うち ☐ S V (指導的立場) 年 ☐ 児童福祉司 年 ☐ 児童心理司 年 ☐ 年	
児童相談所名		所管人口（児童人口） 人 （ ）人					
貴所の組織図を図示して、自分のポストに○をつけてください。 職員総数 名（非常勤再掲）（ ）名 指導を担当している人数 福祉司（ ）名 その他（ ）名				所管地域の特色と、虐待対応における貴所の特色ある取り組みをお書き下さい。			
貴所の H27 年度 受理総件数	養護相談	保健相談	障害相談	非行相談	育成相談	その他	
件(100%)	件 (%)	件(%)	件(%)	件(%)	件(%)	件(%)	
貴所の H27 年度 虐待対応件数	身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待	児童福祉施設 措置件数	里親委託 件数	
件(100%)	件 (%)	件(%)	件(%)	件(%)	件	件	
貴所の H27 年度 一時保護件数と 一時保護の状況	一時保護 全件数	うち虐待での 一時保護件数	うち委託 一時保護件数	一時 保護 所の 設置	あり 定員 人	平均入所期間	H28.5.1 現在の 入所人数
	件	件	件		なし	日間	人
貴所の H27 年度 家庭裁判所との連携	法第 28 条による申立		法第 33 条の 7 による 親権停止の請求		法第 33 条の 7 による 親権喪失の請求		
	件 うち承認 () 件		件 うち承認 () 件		件 うち承認 () 件		
児童福祉司 のスーパーバ イズと人材 育成につい て、お書き ください。	現状：						
	課題や困難点：						
	実践における具体的な工夫：						
連絡先（勤務先）〒 住所						受講者番号	
TEL FAX E-mail							

※ このフェイスシートは冊子に綴り、当日参加者全員に配布します。

添付資料 4 平成 28 年度児童相談所児童福祉司スーパーバイザー研修 ケース概要①

受講者番号		受講者氏名		機関名	
ケース仮名 (イニシャル)	性別	受理時年齢 歳 (学年)	現在の年齢 歳 (学年)	☐ SV (指導的立場) として関わったケース ☐ 担当福祉司として関わったケース	
虐待種別 (重複可) * ○をつけてください ・なし ・身体的 ・性的 ・ネグレクト ・心理的			主たる虐待者 (重複可) * ○をつけてください ・なし ・実父 ・実母 ・継父 ・継母 ・養父 ・養母 ・その他()		
このケースを選んだ理由					
この事例のテーマ					
ケース種別 ☐ 初期対応 ☐ 在宅支援 ☐ 少年非行 ☐ 施設／里親利用中					
主訴 (通告経路と通告内容) [新規ケース・再受理ケース] * ○をつけてください					
初期対応の経過 (簡潔に)					
ジェノグラム (3世代以上、年齢も記入)			家族の生活歴と子どもの生育歴 (親の被虐待歴、最終学歴、職歴、転居歴、結婚歴、出産前後の様子等の生活歴と本児の誕生から受理までの生育歴)		
家族の現況 (職業、言動の特徴等、診断や疾患名、家族間の関係性等を記載) 本児： 実母： 実父：					
世帯の現況 (経済状態、住居の形態 (戸建て・アパート等))					
アセスメントと援助方針 (援助方針決定時点での気がかりな問題、見立て、関わる上での工夫等)					

*できるだけSVとして関わったケースをお願いします。

[illegible]

この事例資料は、事例検討後すべて回収し裁断します。研修参加者にも守秘を徹底していただきます。なお、プライバシー保護のため、事例の本質を損なわない範囲で改変（氏名、職業、関係機関名等）をして記入してください。事例発表ができない特段の事情がある場合は、以下に「○」をつけ、理由をご記入ください。

・ 事例を公表できない（理由： ）

添付資料 5 平成 28 年度児童相談所児童福祉司スーパーバイザー研修 アンケート

1. 貴所には、スーパーバイザーが配置されていますか	①はい ②いいえ																		
2. 貴所では、スーパーバイズの時間が十分に確保されていますか	①はい ②いいえ																		
3. 貴所の職員への研修の機会は十分だと思いますか	①はい ②いいえ																		
4. 貴所では、人材育成体系や個々の職員の専門性や経験に応じた研修計画が示されていますか（初任者・中堅職員・指導的職員それぞれの立場に応じたガイドラインなど）	①はい ②いいえ																		
5. 上記の人材育成体系や研修計画は必要だと感じていますか	①はい ②いいえ																		
6. 貴所における現在の重点課題だと思う項目を3つ選んでください	① 適切な職権介入と安全確保 ② 在宅支援の充実 ③ 社会的養護児童・その保護者への支援 ④ 家族再統合に向けた取り組み ⑤ 退所後(再統合後)・委託解除後のフォロー ⑥ 児童福祉施設への支援 ⑦ 里親への支援 ⑧ 市区町村への支援 ⑨ 市区町村との役割分担 ⑩ 職員のメンタルヘルス ⑪ 人材育成体系の構築 ⑫ 職員の専門性の向上 ⑬ 人口規模や相談件数に適した体制の確立 ⑭ 機関間連携 ⑮ その他（ ）																		
7. ストレスの主な要因だと思われる項目を3つ選んでください。 あなた自身と、児童福祉司(部下)について記入してください	<table border="0"> <tr> <td>自身／福祉司</td> <td>自身／福祉司</td> </tr> <tr> <td>☐ 保護者への対応</td> <td>☐ 保護者からの誹謗・中傷・暴力</td> </tr> <tr> <td>☐ 立入調査</td> <td>☐ 職権一時保護</td> </tr> <tr> <td>☐ 担当ケース数が多い</td> <td>☐ 記録をまとめる時間がない</td> </tr> <tr> <td>☐ 機関内連携</td> <td>☐ 市区町村との連携</td> </tr> <tr> <td>☐ 関係機関との連携</td> <td>☐ 里親への支援</td> </tr> <tr> <td>☐ 子どもの問題行動への対応</td> <td>☐ 保護所・入所施設が満床状態による進行の停滞</td> </tr> <tr> <td>☐ 夜間・休日の対応</td> <td>☐ 社会的な期待や要求</td> </tr> <tr> <td>☐ その他（ ）</td> <td></td> </tr> </table>	自身／福祉司	自身／福祉司	☐ 保護者への対応	☐ 保護者からの誹謗・中傷・暴力	☐ 立入調査	☐ 職権一時保護	☐ 担当ケース数が多い	☐ 記録をまとめる時間がない	☐ 機関内連携	☐ 市区町村との連携	☐ 関係機関との連携	☐ 里親への支援	☐ 子どもの問題行動への対応	☐ 保護所・入所施設が満床状態による進行の停滞	☐ 夜間・休日の対応	☐ 社会的な期待や要求	☐ その他（ ）	
自身／福祉司	自身／福祉司																		
☐ 保護者への対応	☐ 保護者からの誹謗・中傷・暴力																		
☐ 立入調査	☐ 職権一時保護																		
☐ 担当ケース数が多い	☐ 記録をまとめる時間がない																		
☐ 機関内連携	☐ 市区町村との連携																		
☐ 関係機関との連携	☐ 里親への支援																		
☐ 子どもの問題行動への対応	☐ 保護所・入所施設が満床状態による進行の停滞																		
☐ 夜間・休日の対応	☐ 社会的な期待や要求																		
☐ その他（ ）																			
8. 児童福祉司(部下)を指導する上で感じている困難について、特に当てはまるものを3つ選んでください	① 自分が忙しくて十分なSVができない ② 児童福祉司が忙しくて十分な指導ができない ③ ケースを抱え込んでしまう児童福祉司へのSV ④ 依存的な児童福祉司へのSV ⑤ ケースに対して適切な動きがとれない児童福祉司へのSV ⑥ 指示に対して不平や不満が多い児童福祉司へのSV ⑦ 精神的なバランスを崩しかけている児童福祉司へのSV ⑧ 困難ケースが多いために限界を感じるが多い ⑨ 指導者としての知識や経験の不足 ⑩ 自分自身の相談相手がいない ⑪ その他（ ） ⑫ 特にない																		
9. ご自分がスーパーバイズの業務を実施している程度について、数字に○をつけてください 未実施 十分実施 1--2--3--4--5	<table border="0"> <tr> <td>① 特定の事例についての継続的なスーパーバイズ</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>② 緊急時の助言や指示</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>③ 組織対応（組織の責任者の立場で面接や会議に出向く形のSV）</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>④ 同席面接（モデルとして技術を見せる、面接の道筋を示す等）</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>⑤ 集団カンファレンス</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>⑥ ケースの進行管理</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> </table>	① 特定の事例についての継続的なスーパーバイズ	1--2--3--4--5	② 緊急時の助言や指示	1--2--3--4--5	③ 組織対応（組織の責任者の立場で面接や会議に出向く形のSV）	1--2--3--4--5	④ 同席面接（モデルとして技術を見せる、面接の道筋を示す等）	1--2--3--4--5	⑤ 集団カンファレンス	1--2--3--4--5	⑥ ケースの進行管理	1--2--3--4--5						
① 特定の事例についての継続的なスーパーバイズ	1--2--3--4--5																		
② 緊急時の助言や指示	1--2--3--4--5																		
③ 組織対応（組織の責任者の立場で面接や会議に出向く形のSV）	1--2--3--4--5																		
④ 同席面接（モデルとして技術を見せる、面接の道筋を示す等）	1--2--3--4--5																		
⑤ 集団カンファレンス	1--2--3--4--5																		
⑥ ケースの進行管理	1--2--3--4--5																		
10. 児童福祉司育成の充実度について、数字に○をつけてください 不十分 十分 1--2--3--4--5	<table border="0"> <tr> <td>① 人材育成のヴィジョンが示され、育成体系が整えられている</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>② 職員ごとに年間研修計画が立てられている</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>③ 職員が研修に参加しやすい状況にある</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>④ 児相として研修予算は十分に確保されている</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> <tr> <td>⑤ スーパーバイザーの同席面接等オンザジョブで育成している</td> <td>1--2--3--4--5</td> </tr> </table>	① 人材育成のヴィジョンが示され、育成体系が整えられている	1--2--3--4--5	② 職員ごとに年間研修計画が立てられている	1--2--3--4--5	③ 職員が研修に参加しやすい状況にある	1--2--3--4--5	④ 児相として研修予算は十分に確保されている	1--2--3--4--5	⑤ スーパーバイザーの同席面接等オンザジョブで育成している	1--2--3--4--5								
① 人材育成のヴィジョンが示され、育成体系が整えられている	1--2--3--4--5																		
② 職員ごとに年間研修計画が立てられている	1--2--3--4--5																		
③ 職員が研修に参加しやすい状況にある	1--2--3--4--5																		
④ 児相として研修予算は十分に確保されている	1--2--3--4--5																		
⑤ スーパーバイザーの同席面接等オンザジョブで育成している	1--2--3--4--5																		

11.

講義「虐待に対する法的手段の適切な活用」において、講師(弁護士)に質問がある方は該当する項目に○をつけ、質問の要旨を具体的に書いてください。質問のない方は「特になし」に○をつけてください

[質問項目]

- ①立ち入り調査
- ②職権一時保護
- ③法 28 条申立て
- ④親権停止・親権喪失
- ⑤人身保護請求
- ⑥監護者指定・親権変更の申立て
- ⑦刑事告発
- ⑧関係機関との連携
- ⑨虐待の証明や医師の診断書
- ⑩子どもへの事実確認
- ⑪性的虐待への対応
- ⑫医療ネグレクトへの対応
- ⑬施設内人権侵害行為への対応
- ⑭里親委託・特別養子縁組について
- ⑮ケース情報の守秘について
- ⑯その他の法的対応に関わる事柄について
- ⑰特になし

[質問要旨] (簡条書きで、具体的に書いてください。固有名詞はイニシャルにするなど個人情報保護にご配慮下さい)

250 字以内

児童相談所名： _____ 氏名： _____ 受講者番号： _____

※ 設問 1～10 については、集計結果を当日配布するとともに、当センターの援助機関向け web ページに掲載します。回答者は特定されません。

研修後アンケート

お疲れ様でした。今後の研修に活かしたいと思いますので、以下の質問にお答えください。

I 各研修科目がどの程度役に立つと感じたか、あてはまる数字に○をつけてください。

	役に立たない		普通		役に立つ
(1) 講義 1：児童相談所におけるスーパーバイザーと人材育成	1	2	3	4	5
(2) グループ 討議 1：児相の現状と課題、今後のあり方について	1	2	3	4	5
(3) 講義 2：死亡事例から学ぶ	1	2	3	4	5
(4) 講義 3：虐待に対する法的手段の適切な活用	1	2	3	4	5
(5) 事例検討 1 助言者 _____ *助言者名を記入	1	2	3	4	5
(6) 事例検討 2 助言者 _____ *助言者名を記入	1	2	3	4	5
(7) グループ 討議 2：児相におけるスーパーバイザーと人材育成	1	2	3	4	5
(8) 全体会：児相における課題とその解決に向けて	1	2	3	4	5
(9) 全 体：研修全体の役に立つ程度	1	2	3	4	5

II 研修全体で以下の項目についてどの程度の効果を感じたか、あてはまる数字に○をつけてください。

	効果を感じない		普通		効果を感じる
知識を新たに得ることができた	1	2	3	4	5
新たな気づきや理解の深まりがあった	1	2	3	4	5
意欲・関心が高まった	1	2	3	4	5

III 今後の研修内容として希望するものを○で囲んでください。(複数回答可)

【基本】	【連携】	☐ 職員チームのあり方	☐ 性的虐待・性的問題行動	☐ アドミッションケア
☐ 行政説明	☐ 児童福祉施設との連携	☐ 職員のメンタルヘルスケア	☐ ネグレクト	☐ リーピングケア・アフターケア
☐ 法制度・法的対応	☐ 市区町村との連携と後方支援	☐ 研修の計画と実施	☐ 子どもの貧困	☐ 児童福祉司の役割と課題
☐ 個人情報の保護・管理	☐ 家庭裁判所との連携	☐ 人材育成	☐ 発達障害	☐ 児童心理司の役割と課題
☐ 子どもの権利	☐ 医療機関との連携	【各論】	☐ 愛着障害	☐ 一時保護所の役割と課題
【支援】	☐ 教育機関との連携	☐ 虐待が心身に及ぼす影響	☐ 居所不明・不登校	☐ 【形態】
☐ ケースの包括的アセスメント	☐ 保健機関との連携	☐ 子どもの発達	☐ ステップファミリー	☐ 事例検討
☐ リスクアセスメント	☐ 警察との連携	☐ 死亡事例の検証	☐ 喪失体験(離婚・家庭分離)	☐ 実践報告
☐ 在宅支援のあり方	☐ 要対協について	☐ 虐待と脳科学	☐ 学習支援	【その他】
☐ 初期対応と介入	☐ 措置の連続性について	☐ 虐待と特別支援教育	☐ 里親支援	()
☐ 具体的な治療(支援)技法	【育成】	☐ 虐待と非行	☐ 親の精神疾患	
☐ 治療的養育・環境療法	☐ ケースカンファレンスのあり方	☐ 虐待とDV	☐ 施設での子どもの育ち	
☐ 家族支援・家族再統合	☐ スーパービジョンの方法と実際	☐ 子どもの問題行動への対応	☐ 施設内人権侵害行為への対応	

IV 是非職場で聴かせたい講義等がありましたら、○で囲んでください。(複数可)

講義 1 講義 2 講義 3 その他 ()

V 本研修について、ご希望やご意見、ご感想をお書きください。

VI 情報発信へのご登録について (申込時アドレス)：

可能

不可能

登録済み

所属名： _____ 氏名： _____ 受講者番号 () グループ ()